

シェアしたくなる教養メディア

# 文藝春秋 digital

2019年11月スタート

- 創刊97年目の月刊誌『文藝春秋』のデジタル・サブスクリプションサービス
- 月額900円で特集記事は全て読み放題（※掲載されない記事もあります）
- 課金システムを含むCMSは自社開発せず、メディアプラットフォーム「note」を利用している

The screenshot shows the 'Bunrei Shunshu digital' page on the note platform. At the top, there is a navigation bar with the 'Bunrei Shunshu' logo, a home icon, a search icon, a notification bell with a '2' badge, and a '投稿' (Post) button. Below the navigation bar is a large banner with the text 'シェアしたくなる教養メディア' (Educational media you want to share) and the main title '文藝春秋digital' in large, colorful characters. The main content area features two article cards. The first card is titled '「在任中に統一を実現」習近平の「台湾併合」極秘シナリオ' (Secret scenario for unification of Taiwan by Xi Jinping) and includes a photo of Xi Jinping. The second card is titled '中国と韓国が狙う日本の「コロナ」ワクチン開発「機密情報」' (China and South Korea target Japan's 'coronavirus' vaccine development 'secret information') and includes a photo of a man in a white lab coat. To the right of the article cards is a '設定' (Settings) button and a price tag of '¥900 / 月'. Below the article cards, there is a small bio for '文藝春秋digital' and a description of the service: '月刊誌『文藝春秋』の特集記事&ウェブオリジナル記事が読み放題。2019年9月号以降の過去記事もアーカイブ。記事単体の購入よりもお得です。' (Monthly magazine 'Bunrei Shunshu' special articles & web original articles are available for unlimited reading. Past articles from September 2019 onwards are also archived. It's more cost-effective than purchasing individual articles.)

- ・ 「月刊誌のデジタル化」の最適解は？
- ・ 「文春オンライン」ではなぜダメだったのか
- ・ なぜシステムの自社開発を行わなかったのか

- 「文藝春秋がnoteでサブスク」になるまで
- 深津貴之さんとの出会い
- 文藝春秋が求めていたこと
- note社長・加藤貞顕さんとの縁

 noteをはじめました。  
加藤貞顕

すこしだけ歴史の話をしてします。

その昔、菊池寛というクリエイターが、クリエイターによるクリエイターのためのメディアがほしいということで「文藝春秋」という雑誌を立ち上げました。そして、たくさんのクリエイターが集い、作品を発表しました。

雑誌を続けていくと、作家ごとの作品がたまっていきます。それらをまとめたのが単行本、つまり「本」です。「文藝春秋」からは、すばらしい本がたくさん生まれました。紙の時代は、クリエイターを集めたメディアとして雑誌があり、個人のためのメディアとして単行本があったのです。

## 「noteでサブスク」よかったこと

- ・ 安価で課金プラットフォームが持てる
  - ・ 新しい才能との出会い
    - クリエイティブが刺激される場所
- ・ レガシーメディアと新興プラットフォームの“融合”理想のかたち

# 新婚旅行で南極に行つて海パンで飛び込んだ話

岡田悠 (旅ライター)

2020.03.02配信

「極地」に行ってみたかった。心震える響きた。探検家でも冒険家でもないただの好きの会社員にとって、その唯一のチャンスは新婚旅行だった。幸い奥さんも乗り気だったので、有給と正月休み、そして結婚休暇を組み合わせて、南極への旅を決行した。アルゼンチンの南端まで飛行機で移動し、そこから船で「ドレーク海峡」という世界で最も荒れる海を越える。立つてもいられないほどの揺れが二日間続き、ようやく南緯六十六度三十三分、南極圏に到着した。見渡す限り青と白だけの世界。まるで地球が裸になったみたいだ。この星で唯一、どの国にも属さない大陸。三

千万年の間に降り積もった雪が、数千メートルの厚さの氷となってそびえる。果て。剃き出しの自然を毎日心ゆくまで楽しんだ。そんなある日、船内放送で奇妙なイベントが案内された。「ポーラー・プランジを始めます。希望者はデッキに集まってください」英語でポーラーには南極、プランジには飛び込みの意味がある。不安を抱きつつ海パンにバスロープを羽織って外に出ると、既に同じ格好の乗客たちが並んでいた。隣のトルコ人が言うには、なにやら南極にも温泉が湧いている箇所があって、そこに飛び込むんだとか。湯ならば安心だと話していたら、突然前方から叫び声が聞こえた。なぜ叫び声なのか。どういう温泉だ？ しばらくしてタオルにくるまった男性が震えながら歩いてきた。叫び

声の主らしい。感想を尋ねると、男性は「Crazy.」と呟きそのまま去っていった。残された我々に恐怖が走る。ついに順番が回ってきて、前方の景色が開けた。眼下には透き通った海に巨大な氷がのっぺりと伸びていて、見事な青と白の世界。しかしこれは昼に見た南極と同じである。温泉は？ 温泉はどこ？ 水温はいくつだとスタッフに尋ねると、笑顔で「Zero!」と親指を立てた。温泉は誤報だった。スタッフは僕のバスロープを剥ぎ取り、荒々しく腰紐を巻きつける。そしてOKと肩を叩いた。全然OKではない。泳げないんだけど。そう伝えても彼は片言の日本語で「ダイジョブ!」とまた笑った。陽気すぎる。そしてそのままカウントダウンが始まる。もう覚悟を決めるしかなかった。五、四……世界が静止し、思考が溢れ出す。そういえば。昔は結婚のメリットがわからなかった。一人の方が気楽だと

# 新婚旅行で南極に行つて海パンで飛び込んだ話

岡田悠 (旅ライター)

2020.03.02配信

責了 三校 初校

得童先 藝秋名 文藝春秋 5月本誌 文春品 本文130 3印 原稿欄

「極地」に行ってみたかった。心震える響きた。探検家でも冒険家でもないただの好きの会社員にとって、その唯一のチャンスは新婚旅行だった。幸い奥さんも乗り気だったので、有給と正月休み、そして結婚休暇を組み合わせて、南極への旅を決行した。アルゼンチンの南端まで飛行機で移動し、そこから船で「ドレーク海峡」という世界で最も荒れる海を越える。立つてもいられないほどの揺れが二日間続き、ようやく南緯六十六度三十三分、南極圏に到着した。見渡す限り青と白だけの世界。まるで地球が裸になったみたいだ。この星で唯一、どの国にも属さない大陸。三千万年の間に降り積もった雪が、数千メートルの厚さの氷となってそびえる。果て。剃き出しの自然を毎日心ゆくまで楽しんだ。そんなある日、船内放送で奇妙なイベントが案内された。「ポーラー・プランジを始めます。希望者はデッキに集まってください」英語でポーラーには南極、プランジには飛び込みの意味がある。不安を抱きつつ海パンにバスロープを羽織って外に出ると、既に同じ格好の乗客たちが並んでいた。隣のトルコ人が言うには、なにやら南極にも温泉が湧いている箇所があって、そこに飛び込むんだとか。湯ならば安心だと話していたら、突然前方から叫び声が聞こえた。なぜ叫び声なのか。どういう温泉だ？ しばらくしてタオルにくるまった男性が震えながら歩いてきた。叫びわからなかった。一人の方が気楽だと

(2) BUNGEISHUNJU 2020.5

20/03/25 14:59

今月のRE-PUBLISH ウェブで人気の記事をお届けします

1 思っていたから。  
2 三、二……冷えた脳みそが回転を続  
3 ける。  
4 それでも結婚したのは、二人の方が  
5 面白そうなのから。ポーラーと白の景色が広がっていたが、それは  
6 ランジと似ているかもしれない。南極。昼に見た姿とは異なっていた。脳裏に  
7 海に飛び込むことにメリットはないけ  
8 ど、それでもやっぱり飛び込んだ。  
9 一、〇。  
10 透明な海を沈んでいく。不思議と冷  
11 たさは感じない。海中で目を開くと、  
12 巨大な氷塊があった。そこには深い亀  
13 裂が走っていて、よくみると中には暗  
14 い暗い闇が広がっている。甘くて軋  
15 い闇である。青と白の狭間にあるその  
16 黒色は、三千万年が作り出した芸術だ  
17 った。吸い込まれるような美しさに思  
18 わず手を伸ばそうとしたところで、ぐ  
19 いと腰に引力を感じて、そのまま力強  
20 く船に引き上げられた。  
21 腰紐を引かれアシカみたいにペロン  
22 と打ち上がった僕は、そこで初めて猛  
23 烈な寒さを感じた。慌ててタオルを羽



シェアしたくなる教養メディア

# 文藝春秋digital

bungeishunju.com

『文藝春秋』をスマホで!

月額900円で特集記事が読み放題 (※一部掲載されない記事があります)  
充実のオリジナルコンテンツも配信中

イラストレーション: Kanabemouse.art

(3)

DE205003 B01.indd すべてのページ

1冊のQRコードが追加されました。

## 「noteでサブスク」よくなかったこと

- ・ 個人も法人も（プロもアマも）ページの見た目が同じ
- ・ （サブスク全体に共通する課題だが）送客エンジンをどうするか
  - ソーシャル基盤がないと伸びない

# 「noteでサブスク」今後の展望と課題

**ありがとうございました！**